

2023年12月

第159号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

混迷を深める国際情勢

2022年2月24日ロシアが隣国のウクライナにミサイルや戦車部隊による戦争を仕掛けて以来間もなく2年が経過しようとしている。ロシアは同年9月30日にウクライナ東南部の4州(ルガンスク・ドネツク・ザポリージャ・ヘルソン)を一方向的に併合すると宣言、実効支配の事実化を図った。

ロシアはウクライナが同じルーツを持つ国同士でありロシアに組み入れたいとの思いが強く、また、ウクライナが NATO 加盟の動きを見せていたことが戦争を誘発させたとする見方が多い。しかし、2014年にはウクライナ領であったクリミア半島が突如、独立宣言「クリミア共和国」を樹立し、その翌日、自らが望む形でロシアに併合された経緯がある。ロシアのあくなき領土拡大の欲求が見え隠れする。ロシアはウクライナの10倍の戦力を持っていると言われていたが、西側諸国もウクライナに対して軍事面や資金面での援助が続き、さらに、来年度は両国で大統領選挙を控えどちらも安易な妥協ができない立場に立たされており、和平への道は極めて厳しい状況となっている。

今年度に入ってから、パレスチナ・イスラム主義武装組織ハマスが10月7日イスラエルに対して奇襲攻撃を行ったため数千人が犠牲となった。これに対してイスラエル側は報復としてパレスチナ・ガザ地区のハマス戦闘部隊を殲滅させる作戦を展開。民間人を含む多数の犠牲者が出ていることから、国際世論も早期解決・停戦を呼びかけているものの、イスラエル側では多数の人質を取られ「人間の盾」としてハマスに利用される恐れもあり、さらに今後のパレスチナとの関係をどのように構築するかを考慮するとき徹底的にハマスに打撃を与える作戦を展開する様相となっている。

今回のハマスの攻撃は、イスラエルとサウジアラビアとの国交正常化交渉が進んでいる最中に行われたもので、イスラエルとパレスチナの関係改善を望んでいない意思表示でもある。こちらも予断を許さない。

最近ではミャンマーで軍政府と少数民族武装勢力との衝突が伝えられた。北朝鮮は相変わらず宇宙衛星打ち上げと称して中距離弾道ミサイルや長距離ミサイルの開発実験に余念がない。中国も米国のバイデン大統領・日本の岸田首相との会談を行い友好のポーズを見せているがフィリピンの船舶との衝突事故、台湾上空に沢山の航空機飛行、日本には尖閣諸島に多数の船舶航行の常態化や原発水処理に難癖を付け海山物の輸入制限などで威嚇し、中国国内の不動産不況、若者の失業率の高まりなど国内経済悪化の世論の不满を海外に目をそらそうしているようにも見える。

世界は第二次世界大戦以降、異常な気候変動とともに様々な分野で混乱状態に陥っている。人間が権力と欲の塊から抜け出せるのはいつのことだろうか。

日々感謝

私などは年齢的には既に老人でありますけれども、いまもって欠点だらけで自分自身には満足できません。

欠点だらけだという自覚は若いときは、誠に苦しく、ひどい神経衰弱になって、もうこの世をごめんこうむろうかと思ったこともあるのですが、年をとった今日では、欠点の自覚は自覚として持ちながらも、世の人々に許されて、今日一日、無事に生かさせてもらっていることに、心から感謝して、日々よりよき人間へと祈りながら、人生を歩いておるのであります。

心の長生き

長生きはただ身体の長生きだけではなく、心の長生きも伴わねばならぬ。

だれにでも喜ばれる熟した味と香とを身につけねばならぬ。

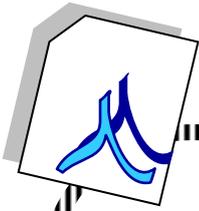
老人にとって最も望ましい姿は、そこにおることが自分に楽しいだけでなく、周囲の人々にも明るさを与えるような生き方であろう。

人間の燃焼力

ある目的に向かって長い年月燃え続けるということは、全生物を通じて人間だけにしかできない素晴らしいことである。

それには、深い精神的生命と、その世話をする素晴らしい脳がなければできないからである。

そういう意味では、同じく燃えるにしても、意識的に目的に向かって人間的な燃え方は、全宇宙の中でもまったく人間独特のもので、こういう燃焼力を与えられた人間に生まれたことは、なんとありがたいことか。



田山 花袋 (日本の小説家)

- 明治4年12月13日(1872年) 現在の群馬県館林市に田山鍋十郎・てつ夫妻の次男として生まれた。田山家はもともと秋元藩士の家柄。
- 明治13年(1880年) 9歳、足利で丁稚奉公。翌年2月上旬上京し有隣堂書店で丁稚奉公。その後帰郷。
- 明治16年(1883年) 12歳、漢学塾で漢詩文を学び14歳で漢詩集を作成、また桂園派の和歌や西洋文学にも親しむ。
- 明治23年(1890年) 兄に従い再び上京。柳田国男と知り合い、翌年尾崎紅葉のところへ入門。
紅葉の指示で江見蔭の指導を受け、「瓜畑」を発表し翌年から花袋と号した。
- 明治29年(1896年) 国木田独歩、島崎藤村と知り合い、翌年同氏らと「抒情詩」を刊行し40編の詩を収めた。
- 明治35年(1902年) 「重右衛門の最後」を発表。これで作家としての力量が認められた。
- 明治37年(1904年) 日露戦争勃発。写真班従軍記者を勤め、森鷗外と頻繁に接触。
- 明治40年(1907年) 代表作「蒲団」、翌年「田舎教師」などを発表。
自然文学の新しい担い手として活躍。
- 昭和5年5月13日 脳溢血が悪化し自宅で死亡。享年58歳。
晩年は宗教的・精神的作品を作成。

オススメの *BOOK*



「太閤暗殺」(秀吉と本因坊)

作者 坂岡 真 出版社 幻冬舎

作者は1961年、新潟県生まれ。時代小説を多く手がけ、将軍家毒見役を材にとった「鬼没」シリーズが200万部を越える大ヒット作品となった。

本書は囲碁の本因坊が殿様との手合いを通じて得る個人の「くせ」や「情報」が豊臣秀吉の病気・死亡へと結びついてゆく。太閤が晩年朝鮮やさらには中国まで征服しようとするでもない野望にうつつを抜かすが、それを取りやめるよう諫言する者が現れてこない。そのための暗殺計画が……………。



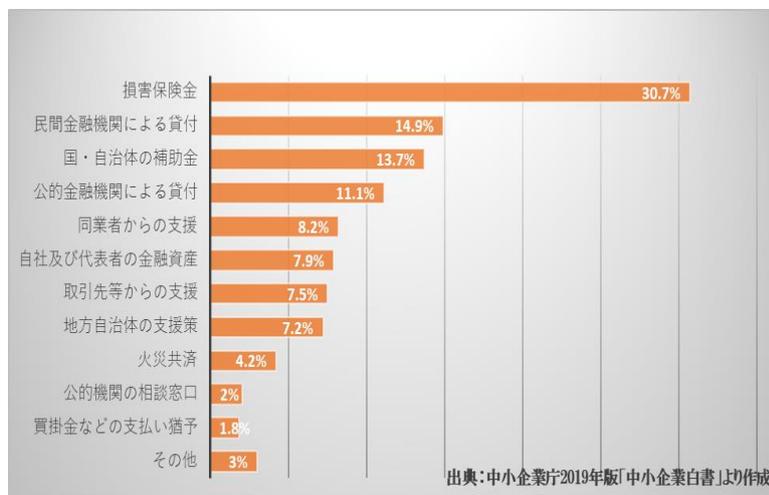
いち早い復旧のために保険で備える

近年、自然災害が頻発する中で、ますます関心が高まっている損害保険。損害保険が被災時の損失を軽減させ、資金面で早期復旧の工程を支えます。実際に被災した中小企業へのアンケートでも、事業の復旧に役立った対策として損害保険が有効であることが明らかになっています。

～貴社の備えは十分ですか？～

様々な災害による事業所のリスクを確認した上で、必要な補償を確保しましょう。損害保険の加入や見直しの際には以下の点を検討しましょう。

- ★水災や地震等の想定される災害が補償されているか。例えば、火災保険について水災を補償するプランになっているか、地震危険補償特約がセットされているかチェック。
- ★補償内容は想定される被害に対して適切か。保険金額（支払限度額）、支払基準や免責事項もチェック。
- ★建物だけでなく、生産設備や商品。製品等への被害への補償や事業中断による損害の補償が必要かチェック。



事業所が被災しても顧客やサプライチェーンは止まってくれません。損害を最小限に抑え、いち早く事業の復旧を図れるかが運命の分かれ道です。

災害時に役立つ損害保険だからこそ、今一度損害保険の検討・見直しをしてみましょう。

【編集後記】

世界で戦争や紛争が相次いでいる中、明るいニュースが飛び込んできた。

米大リーグの今期のア・リーグ最優秀選手に、大谷翔平選手が投打二刀流で活躍し記者投票で満票を獲得し2度目の受賞となった。

大谷選手は日本人で初の本塁打王となり、打率3割4厘、95打点、投手では10勝5敗、防御率3.14を記録した。シーズン後半に怪我のため欠場し腕の手術を行ったが、来シーズンに向けて、また、5年先10年先を見据えたトレーニングに励んでいる。

今回の受賞で日本全国の小学校へ野球のグローブ3個を贈り、子供達へ夢と希望を与える行動力にも敬服したい。